

令和5年度 第3回市民参加推進会議 議事録

1. 開催日 令和6年2月21日(水) 午前10時00分～午前11時30分

2. 開催場所 浦安市役所10階 協働会議室

3. 出席者 (委員)関谷会長、野田副会長、友利委員、牧野委員
塩谷委員、木原委員、泉澤委員、丸山委員
(事務局)増田部長、高柳次長、醍醐課長、大塚補佐
春本主事

4. 議事次第

- (1) 令和6年度の会議開催スケジュールについて
- (2) 「第3期市民参加推進計画」に関する進行管理シートについて
- (3) 市民参加に関する事業の実施状況調査について

5. 配布資料

(会議資料)

資料3-1 令和6年度の会議開催スケジュール

資料3-2 「第3期市民参加推進計画」に関する進行管理シート

資料3-3 市民参加に関する事業の実施状況調査

6. 議事概要

(1) 令和6年度の会議開催スケジュールについて

■説明(事務局)

令和6年度は全3回の開催を予定していることを報告するとともに、第3期市民参加推進計画の進行管理として令和5年度の市民参加に関する事業の実施事業調査を実施すること、次期市民参加推進計画の今後の方向性を検討するために市民参加に関する意識調査を行う等、各回の議題について説明した。

■主な意見

委員：市民参加に関する意識調査は何月ごろに予定しているか。

事務局：あくまで予定だが、7、8月頃の実施しようと考えている。

委員：第1回の会議において審議できるということか。

事務局：そのとおりである。調査を実施する前に市民参加推進会議で概要を説明し、意見をもらう予定で考えている。

委員：先ほどに付随するが、例えば8月に調査をするので7月の会議には調査概要等がほぼ決まっており、承認ありきにはならないか。

事務局：こちらの会議で審議を経てからと考えている。そのため、変更ができないという事態にならないようスケジュール管理は徹底していきたい。

委員：お金と時間をかけて実施するため、実態を把握できるものにしてほしい。

委員：前回の意識調査は一連の業務を委託したが、今回は市で調査を行い、そのデータを元に分析業務を委託する予定である。

(2)「第3期市民参加推進計画」に関する進行管理シートについて

■説明（事務局）

第3期市民参加推進計画の進行管理として、市民参加に関する事業の実施状況調査票から深掘りの対象とした5つの新規事業について、委員から提出された意見に対して各課の見解を報告した。

■主な意見

委員：こども食堂の代表者は、公民館の調理室を使用したいが公民館は教育施設であり、こども食堂は福祉系であるため、使用できないかもしれないと話していた。また、調理室だけでなく、もうひとつ部屋を借りたいが、公民館は1団体一部屋しか借りられないというルールがあるため、動きづらくなっているとのこと。教育と福祉は分けるべきなのか、その部分を市で連携していけば、やりやすい環境になるのではないか。

事務局：こちらの事業に関して、連携課であるこども家庭支援センターの担当者に話を聞いたところ、市の事業として位置づけることができれば、調理室等の事前予約や場所の確保において融通が利くと考えているようである。その点も踏まえてできるだけ進捗を把握し、この会議の中で報告していきたいと考えている。

委員：来年の事業の選出方法について、各部で決める形で良いかという説明があったが、選ぶ事業の基準を課として出すのか。市民の立場から見ると、各部で事業を出すと市のほうに都合の良いものが出てくるのではないかと懸念している。

- 事務局：本年度は平等に新規の事業として選出したが、その中でも障がい者福祉計画の策定事業や、地区住民説明会については、前回の会議の中で新規として意見をもらうべき事業なのかという意見が出された。そのため来年度については、新規等の区分ではなく、担当課がより市民参加推進会議の委員から意見をいただきたい事業を選ぶ形で実施したいと考えている。
- 委員：こども食堂の件に関してだが、市民参加推進課として視察したことはあるか。
- 事務局：今年度、昨年度に関しては、視察はしていない。
- 委員：こども食堂の実態を初めて聞いたので、可能であれば団体の活動を視察することはできないだろうか。現地の聞き取り調査でも構わないので、もう少し踏み込んでいけば市民参加の意味が伝わるのではないか。
- 事務局：その件について、現在こども食堂は月に2回、曜日限定で活動しており、調整することは可能だと思われるので検討していく。各部からの事業の選出については、基準等を設け市民参加の意見をいただけるよう進めていく。全ての部からあがってくる保証はないが努力はしたい。
- 委員：アートプロジェクトについて、課題がよくわかっていない。どのような全体像を捉えているのかも理解しきれていない。各課の担当の方が会議に来てくれれば、新規事業であっても説明により疑問点を払拭できるのではないか。
- 委員：市民参加の理念を少しでも実現に近づけていくなら、シチズンシップ教育のようなこと検討する必要がある。各担当課が市民に近い所で実践していく形がよいが、各課によってモチベーションが違うため、市民参加が形式的になり成長がない。市民参加推進課としてはどのように考えているのか。
- 事務局：今年度に関しては、市民参加に対する職員の意識醸成を図る目的で研修会を開催しており、そこで意識づけは行っている。各課によってばらつきはあることは認識しているため、対策を講じていく予定である。
- 事務局：視察の件は、市民参加推進会議の委員として行く場合だと予算の問題がある。来年度の会議開催分として3回分しか予算を取っていないため、その部分をクリアしないと視察は難しいと思われる。
- 委員：ボランティアとして視察しても構わない。

事務局：来年度、深掘りする事業の選出については、令和5年度以降も継続する事業であるとともに、事業方法の16項目の内、パブリックコメント、後援、共催、補助金、委託、公の施設の使用の6項目を除いたものとして考えている。

(3) 市民参加に関する事業の実施状況調査について

■説明（事務局）

第3期市民参加推進計画の進捗管理として、令和6年度実施予定の調査要領（令和5年度実績）を見直ししたため、改正案を報告した。

■主な意見

委員：事業の評価等の項目があるが、記載をするにあたり基準はあるか。

事務局：特にない。各担当課が課題としている部分や実績を文章で記載してもらっている。

委員：市民参加というのがどこを目指すのか、市と市民が共通意識を持っていた方が良いのではないか。市への要望が多く、ほとんど市が主導で行っている状況である。それでは本来目指すべき市民参加とかけ離れているのではないか。どれくらいの市民が参加したか等、市民参加に関する目的を事業の評価に入れても良いのではないか。

事務局：今日の会議の意見をふまえて、できる限り検討していく。

委員：様々な課が事業を行っているが、事業を行うにあたり関係する団体が固定化されていると思われる。それでは事業が膨らまない。このような状況もあるため、新しい人材の出会いや民間との出会いを増やすことができたか等の項目を設けてはどうか。

事務局：確かに特定の団体と事業を進めている部分も見受けられる。その点についても検討する。

委員：厳密な基準を入れすぎてしまうと、それを満たせば良いだろうという考えになるため、もう少しゆとりを持たせるのが重要だと考える。

委員：この会議に関わっている者として、特に事業に関わっている方が浦安市の一部の人になっている、いつも同じ人が関わっている。このような状況は悲しいと感じる。より市民と関わりが持て、共有されるような取り組みにならないのかと常々思っている。

- 委員：調査要領の中に、事業の目的や必要性を記載する項目を設けていただけると事業の流れがつかみやすいのではないかと。
- 事務局：その点についても、改めて検討させていただく。
- 委員：浦安市は各課の個別事業に対して、総合計画のどこに位置づけられているのか、また、予算等が一覧になったシートは公表していないのか。
- 事務局：総務の方で行っている事務事業評価があり、それに関してはホームページで公表している。
- 委員：そのような資料が情報としてあっても良いかもしれない。事業がどんな目的でどんな風に動いているかがわかると思うので、今後の資料として検討してほしい。

全ての議題及び会議の議事録については会長一任とすることを承認いただき会議を終了した。